

(中間評価結果)

令和3年度科学技術人材育成費補助事業 データ関連人材育成プログラム(全国ネットワーク)

(実施期間：令和元～令和7年度)

実施機関：大阪大学(総括責任者：西尾 章治郎)

(1) 評価結果

総合評価	全国ネットワーク構想の進捗状況	高度データ関連人材の育成	今後の進め方
A	a	a	a

総合評価：A(所期の計画と同等の取組が行われている)

(2) 評価コメント

所期の計画に沿って取組が適切に運営されていると評価できる。様々な分野の博士人材等に対し、データサイエンス等を活用して社会のあらゆる場で活躍できる人材を育成するプログラム開発とその実施に資するための全国ネットワークの構築という本事業の目的の達成を目指している。そして、そのための各コンソーシアムとの連携、ならびに出前授業やインタラクティブマッチングなどの具体的な方策をコロナ禍という困難な状況下においても、実施形態を工夫するなどして積極的に推進している。

- ・ **全国ネットワーク構想の進捗状況**：全国ネットワークを推進するための機関として十分な体制が築かれている。事務的な側面と研究・教育的な側面から運営に従事する体制が確立し、ネットワーク拡充への各種取組(データ関連人材育成プログラム(D-DRIVE)の各コンソーシアム及び産業界との関係構築)は評価できる。実際、各種イベントへの相互参画や広報活動も活発であり、コロナ禍という困難な状況においても可能な範囲で取組を推進している。今後さらに、各地のリーダー的のみならず、ニーズはあるが資源が十分ではない大学においても本取組の成果を利用可能とするための方策を期待する。
- ・ **高度データ関連人材の育成**：コンソーシアム間の適切な連携の下、参画機関が連動して協働的な活動を行う仕組みを組み立て、それを学生へのキャリアパスの提供と新たなフィールドの開拓というフレームに効果的に展開させている。また、教育・研修プログラムの横展開に関しても、出前授業や講習会あるいはインタラクティブマッチングなどを積極的に開催し、民間企業の参加ならびに各コンソーシアムからの参加者も増加していることは評価できる。今後さらに博士人材の参画を促すような取組が望まれる。また、コロナ禍で逆に利活用の経験が蓄積されつつあるコンテンツのデジタル化やネットワーク化、それを活用したオンデマンド配信を取り入れた人材の育成方法の拡充と深化を期待する。
- ・ **今後の進め方**：全国ネットワークが自立し、本取組の継続性を確保し得る体制作りや、自走のための資金確保スキーム構築のための検討が行われている。企業との組織的連携を強めること、ならびにセミナーやインタラクティブマッチング機会の有料化を目指すなど、今後の事業運営に必要な経費をまかなうための体制作りが計画的に進んでいることは評価できる。今後さらに、D-DRIVEをしっかりとブランド化し、個々のコンソーシアムが持つ強みを生かしつつ共存するモデルを引き続き検討することで、全国ネットワークという構図がより価値を生むための方策について具体化されることを期待する。